

新発売



処方せん医薬品：注意—医師等の処方せんにより使用すること
膵消化酵素補充剤

薬価基準収載

リパクレオン® 顆粒**300mg**分包
カプセル**150mg**

〈パンクレリパーゼ製剤〉 **Lipacreon**®

●効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意については添付文書をご参照ください。

Abbott
製造販売元 **アボット ジャパン株式会社**
東京都港区三田3-5-27

Eisai
販売元 **エーザイ株式会社**
東京都文京区小石川4-6-10

製品情報お問い合わせ先：エーザイ株式会社 お客様ホットライン
☎0120-419-497 9～18時(土、日、祝日9～17時)

LPC1108C02

[検体検査実施料収載]
日本標準商品分類番号 877449
体外診断用医薬品承認番号
20900AMZ00083000



**肝細胞癌の
診断補助に用いる…**

PIVKA-IIキット
血中PIVKA-II測定用医薬品 体外診断用医薬品

ピコルミ PIVKA-II
〈電気化学発光免疫測定法〉

●使用目的、操作上の注意、使用上又は取扱い上の注意等については添付文書をご参照ください。

製造販売元 **エーディア株式会社**
東京都千代田区岩本町1-10-6

販売提携 **Eisai** **エーザイ株式会社**
東京都文京区小石川4-6-10

商品情報お問い合わせ先：エーディア株式会社 商品情報係 ☎03-3863-3271 / エーザイ株式会社 お客様ホットライン ☎0120-419-497

PVKA1104C03

「第13回臨床消化器病研究会」開催のお知らせ
肝胆膵の部 症例募集のお知らせ

肝胆膵の部

[3セッション]

■8:50～10:40

主題1 肝：「早期に再発をきたす高悪性度肝腫瘍」

司 会：角谷 眞澄先生(信州大学医学部 画像医学講座)
佐野 圭二先生(帝京大学医学部 外科学講座)
病理コメンター：中島 収先生(久留米大学病院 臨床検査部)

■10:50～12:40

**主題2 胆：「胆管狭窄の診断
～典型例から鑑別困難例まで～」**

司 会：海野 倫明先生(東北大学大学院 消化器外科学)
糸井 隆夫先生(東京医科大学 消化器内科)
病理コメンター：柳澤 昭夫先生(京都府立医科大学 人体病理学)

■13:55～15:45

主題3 膵：「転移性膵腫瘍」

司 会：山雄 健次先生(愛知県がんセンター中央病院 消化器内科)
木村 理先生(山形大学医学部 消化器・乳腺甲状腺・一般外科)
病理コメンター：福島 敬宜先生(自治医科大学附属病院 病理診断部)

消化管の部

[3セッション]

■8:50～10:40

**主題1 胃：「ESD時代における
胃癌側方進展範囲診断の基本」**

司 会：後藤田 卓志先生(東京医科大学 消化器内科)
山本 博徳先生(自治医科大学附属病院 光学医療センター)
病理指導：石黒 信吾先生(ピーシーエルジャパン)

■10:50～12:40

**主題2 大腸：「大腸SM癌の浸潤度診断
～基本とピットフォール」**

司 会：斉藤 裕輔先生(市立旭川病院 消化器病センター)
田中 信治先生(広島大学 内視鏡診療科)
病理指導：味岡 洋一先生(新潟大学大学院 分子・診断病理学)

■13:55～15:45

主題3 食道：「隆起を呈する食道病変の鑑別診断」

司 会：井上 晴洋先生(昭和大学横浜市北部病院 消化器センター)
小山 恒男先生(佐久総合病院 胃腸科)
病理指導：八尾 隆史先生(順天堂大学大学院医学研究科 人体病理学)

2012年7月28日(土) 8:45～15:55(予定)

**グランドプリンスホテル新高輪
「国際館パミール」3階「北辰・崑崙」**

〒108-8612 東京都港区高輪3-13-1 TEL 03-3442-1111 FAX 03-3444-1234

参加資格 **オープン** 会場費 **3,000円**

共催：臨床消化器病研究会

〈事務局〉「消化管の部」福岡大学筑紫病院 消化器内科
「肝胆膵の部」手稲溪仁会病院 消化器病センター

エーザイ株式会社(担当：医薬マーケティング部 消化器領域室)

臨床消化器病研究会HP <http://netconf.eisai.co.jp/rinsho-shokaki/>

第13回臨床消化器病研究会 「肝胆膵の部・演題募集」について

肝胆膵の部では、各主題で検討する症例を公募いたします。

肝胆膵の部 主題症例募集

「主題のねらい」に即した症例があれば、「症例申込票」・「画像・病理データ」をCDに保存のうえ、事務局宛にお送りください。

※「症例申込票」は、エーザイ株式会社担当者または、臨床消化器病研究会 HP(<http://netconf.eisai.co.jp/rinsho-shokaki/>)より入手願います。

締め切り: 2012年5月18日(金)

送付先: 臨床消化器病研究会(肝胆膵)事務局
手稲溪仁会病院 消化器病センター 相内 真代 宛
〒006-8555 北海道札幌市手稲区前田1条12丁目1-40
TEL: 011-681-8111(内2050) FAX: 011-685-2967
e-mail: tkgc@tb3.so-net.ne.jp

本研究会では、各セッションの様子をDVDに収録し、研究会終了後に希望者に貸出します。応募にあたっては、予めご承知おきください。

注意事項

1)「抄録」

※「臨床消化器病研究会 症例申込票」を使用し、以下の項目を必ずご記入願います。

- 応募する「領域」「主題」
- 演題名、所属、氏名
- 症例の要旨(400文字以内)
- 症例申込票とともに送りいただく資料の種類、枚数(資料別)

2)「画像・病理データ」

※Powerpointで作成し、以下の画像・病理データをご提出願います。

- 画像所見(X線所見、内視鏡所見など)
- 切除標本所見(マクロ)
- 病理組織所見(ミクロ)
- その他、症例検討に必要な資料

※病理標本現物(プレパラート)は、送付しないでください。

3)「症例申込票」、「画像・病理データ」は、CDに保存の上、提出願います。

主題 1 肝: 「早期に再発をきたす高悪性度肝腫瘍」

司 会: 角谷 眞澄先生(信州大学医学部 画像医学講座)
佐野 圭二先生(帝京大学医学部 外科学講座)

病理コメンテーター: 中島 収先生(久留米大学病院 臨床検査部)

肝腫瘍において根治的な外科切除術や局所療法後、当初の予想に反して早期に再発した症例を経験することがある。このような腫瘍の多くはその後、局所的な治療のみでは制御できない可能性が高く予後不良である。

一方、現行のわが国の肝癌診療ガイドラインと欧米のガイドラインでは、肝腫瘍の大きさ、個数と背景肝病変により治療方針は規定されており、早期に再発する肝腫瘍の診療には対応できていない。

今回は、これまで予後不良因子とされてきた画像診断上の脈管浸潤などがみられないにもかかわらず早期に再発・転移をきたす悪性度の高い様々な(肝細胞癌を含めた)肝腫瘍を主題として取り上げた。その臨床・画像・病理上の特徴を本セッションで検討し、現時点でこのような腫瘍をいかに診断し、治療すべきか明らかにしたい。

主題 2 胆: 「胆管狭窄の診断 ~典型例から鑑別困難例まで~」

司 会: 海野 倫明先生(東北大学大学院 消化器外科)
糸井 隆夫先生(東京医科大学 消化器内科)

病理コメンテーター: 柳澤 昭夫先生(京都府立医科大学 人体病理学)

近年の画像診断の進歩により、胆管狭窄の存在診断は比較的容易となってきた。しかし質的診断に関しては未だ日常臨床で鑑別診断に苦慮することが少なくない。胆管狭窄の原因は術後狭窄や原発性硬化性胆管炎、慢性膵炎、IgG4関連硬化性胆管炎(AIPに伴うものも含む)といった良性狭窄から胆管癌、胆嚢(管)癌をはじめとする悪性狭窄まで多岐にわたり、その部位も肝内胆管、肝門部そして中下部、さらには複数部位と多くのバリエーションがある。

そこで本セッションでは、日常比較的遭遇する可能性のある上記疾患の典型例および鑑別困難例の画像診断について、“鑑別に必要(あるいは不必要)な画像検査はなにか?”や、これら画像検査の中で“この所見があればこう診断する!”といった診断のコツについて論じてみたい。なお悪性狭窄では切除標本との対比は必須であるが、良性狭窄においては組織生検に基づく長期経過観察例でも構わない。多数の応募を期待する。

主題 3 膵: 「転移性膵腫瘍」

司 会: 山雄 健次先生(愛知県がんセンター中央病院 消化器内科)
木村 理先生(山形大学医学部 消化器・乳腺甲状腺・一般外科学)

病理コメンテーター: 福嶋 敬宜先生(自治医科大学附属病院 病理診断部)

膵腫瘍性病変には膵癌、膵神経内分泌腫瘍、腫瘍形成性膵炎などが大部分を占めるが、稀な病変として転移性膵癌も鑑別に挙げる必要がある。転移性膵癌は、その多くが進行した癌の終末像として全身への転移の一部分症として発見されると考えられているが、腎癌のように外科的切除で明らかに予後の改善するものや、原発性膵癌との鑑別を要し、その結果によっては選択すべき治療が大きく異なる等の症例も見られる。近年、画像診断の向上やEUS-FNAの普及、手術の安全性の向上、更には化学療法の進歩に伴い、治癒、もしくは治療に奏功する転移性膵癌の報告も増えている。

本セッションでは、画像所見が明瞭であり、手術あるいは生検等で確定診断の得られた種々の転移性膵癌の症例を呈示して戴きたい。多数の応募を期待している。